

平成20年8月22日

財団法人 静岡経済研究所

理事長 古知弘行

〒420-0853 静岡市葵区追手町1-13  
アゴラ静岡 5階

TEL 054-250-8750

FAX 054-250-8770

# S E R I NEWS RELEASE

## 定例調査

第19回 静岡県版「景気ウォッチャー調査」結果(平成20年7月実施)

## 物価上昇などを要因に消費者マインドや 企業の経営環境が悪化し、景況感は大幅に後退

### 分野別にみる景気判断指数(D.I.)

(D.I.)	(後退)											(横ばい)(改善)											D.I.数値		
	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	現状判断	先行き判断	回答者数											
全 体				●	○							22.9	26.2	106											
家計消費関連				●	○							23.8	27.2	81											
小売関連			●	○								19.3	22.1	35											
飲食関連				○	●							25.0	22.2	9											
サービス関連					●		○					27.5	33.3	30											
住宅関連					●	○						28.6	32.1	7											
事業所向けビジネス関連				○								25.0	25.0	17											
雇用関連	●		○									9.4	18.8	8											

●：現状判断(3カ月前と比べた現在の景気) ○：先行き判断(現在と比べた2~3カ月先の景気) ●○：現状判断と先行き判断が同数値

3カ月前との比較でみた景気の「現状判断指数(方向性)」は22.9と、“景気横ばい”を示す指数「50」を大きく下回り、調査開始(平成16年1月)以来の最低を記録した。また、前回(33.3)と比較しても10.4ポイントと大きく下降しており、後退幅としても過去最大となった。

また、2~3カ月先の「先行き判断指数(方向性)」も26.2と、前回調査(33.5)に比べて7.3ポイント低下している。諸物価の高騰によって消費者マインドや企業の経営環境が悪化する中、ウォッチャーは先行きについても不安視しており、今後も景気の停滞が続くとみている。

一方、現時点での景気の「水準判断」も22.6と、前回調査(32.5)から9.9ポイント低下した。すべての分野において30を下回り、特に雇用関連においては20を下回るなど、景況感は急速に後退している。

## 「現状判断」は22.9と、景況感は大幅に後退

今回調査（平成20年7月実施）では、景気が3カ月前と比べて“良くなっているか悪くなっているか”を聞いた「現状判断指数」は22.9と、調査開始（16年1月）以来の最低を記録した。また、前回調査（33.3）と比較しても10.4ポイントと大きく下降しており、後退幅としても過去最大となった（表題図、図表1）。

### 分野別の動向

**家計消費関連（D.I.=23.8）**・・・家計消費関連全体では23.8と、前回調査（32.7）に比べ8.9ポイント下降した。小売関連（19.3）や飲食関連（25.0）では、「不景気な空気が顧客の買い控えにつながっている」（書籍販売）や、「衝動買いのような消費行動がみられなくなり、消費者マインドはかなり減退している」（外食チェーン）など、消費意欲の低下を嘆く声が多い。また、サービス関連（27.5）では、「原油高騰の影響で自動車の往来は減少し、個人客の動きが鈍い」（観光ホテル）など、原油高によるマイナスの影響が指摘されたほか、住宅関連（28.6）でも、「モデルルームへの来客数が減少」（住宅販売）と、厳しい声が挙がっている。

**事業所向けビジネス関連（D.I.=25.0）**・・・現状判断指数は25.0と、前回（33.3）を8.3ポイント下回った。「新聞折込広告の出稿回数が減り、サイズダウンが目立つ」（広告）、「受注件数、1件当たりの受注量ともに減少している」（印刷）など、景気減退を示すコメントが多くなっている。

**雇用関連（D.I.=9.4）**・・・現状判断指数は9.4と、前回（37.5）と比べて28.1ポイントと大きく下降した。「企業の労働力確保に向けた動きが減速している」（求人情報誌）、「求職者数が増加する一方、求人側の要求が厳しくなってきた」（職業紹介）、「中小企業の採用意欲が急激に低下してきた」（人材派遣）など、企業の採用意欲が衰えてきており、雇用情勢はさらに厳しい状況に向かっている。

## 「先行き判断」は26.2と、今後も停滞感が続くことを懸念

一方、2～3カ月先の景気が今月と比べて“良くなるか悪くなるか”を聞いた「先行き判断指数」は26.2となり、前回（33.5）に比べて7.3ポイント下降し、過去最低を記録した（表題図、図表2）。「悪くなる」「やや悪くなる」と回答した割合は71.7%と、7割以上のウォッチャーが景気の先行きについて悪化を懸念している。

### 分野別の動向

**家計消費関連（D.I.=27.2）**・・・家計消費関連全体では27.2と、前回調査（34.6）に比べて7.4ポイント下降した。内訳をみると、サービス関連（33.3）の一部では、「海外よりも近場へという動きもみられる」（観光旅館）と、航空機の高額な燃油サー

図表1 現状判断指数D.I.の推移

	H18.7月	H18.10月	H19.1月	H19.4月	H19.7月	H19.10月	H20.1月	H20.4月	H20.7月	
									今回	前回比
全体	52.3	50.7	52.5	51.0	47.7	40.3	31.6	33.3	22.9	10.4
家計消費関連	50.6	49.7	52.7	48.1	47.2	39.9	31.9	32.7	23.8	8.9
小売関連	52.8	50.0	49.3	47.1	43.8	39.3	34.7	33.6	19.3	14.3
飲食関連	55.0	42.9	61.1	54.2	55.6	40.6	30.6	28.1	25.0	3.1
サービス関連	46.1	50.0	53.2	48.4	48.3	40.3	32.0	33.1	27.5	5.6
住宅関連	54.2	53.6	57.1	45.0	50.0	40.0	21.9	32.1	28.6	3.5
事業所向けビジネス関連	61.8	50.0	50.0	58.8	48.7	44.4	32.8	33.3	25.0	8.3
雇用関連	50.0	60.0	55.6	62.5	50.0	36.1	25.0	37.5	9.4	28.1

図表2 先行き判断指数D.I.の推移

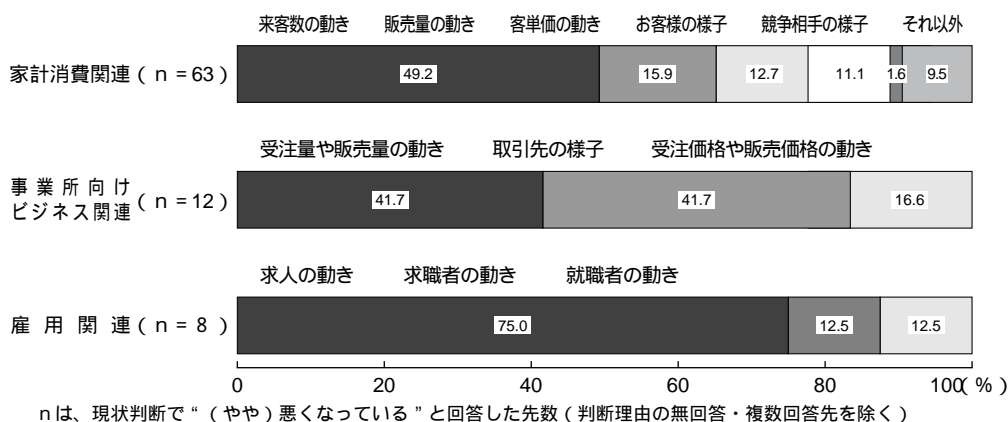
	H18.7月	H18.10月	H19.1月	H19.4月	H19.7月	H19.10月	H20.1月	H20.4月	H20.7月	
									今回	前回比
全体	53.2	57.2	55.1	51.2	49.8	47.8	35.2	33.5	26.2	7.3
家計消費関連	53.9	59.5	55.7	51.3	50.3	49.4	35.6	34.6	27.2	7.4
小売関連	52.1	61.8	55.4	52.1	47.2	45.7	32.3	35.0	22.1	12.9
飲食関連	55.0	60.7	44.4	54.2	50.0	57.1	33.3	21.9	22.2	+0.3
サービス関連	55.5	57.8	60.5	51.6	55.0	53.3	42.2	34.7	33.3	1.4
住宅関連	54.2	53.6	50.0	40.0	45.0	40.0	25.0	46.4	32.1	14.3
事業所向けビジネス関連	54.4	47.4	53.9	51.5	51.3	47.2	34.4	28.3	25.0	3.3
雇用関連	44.4	57.5	52.8	50.0	41.7	36.1	32.1	32.5	18.8	13.7

チャージを敬遠する旅行者の国内回帰に期待する声もあるが、小売関連（22.1）では「先行き不透明な景況で不安定材料が多すぎる」（二輪車販売）、「先行きの明るい材料がまったく見当たらない」（靴・靴販売）など、先行きを不安視するコメントが多く寄せられた。また、飲食関連（22.2）では、「原材料が高くなり、価格を上げざるを得ないが、値上げが顧客にどう影響するか読めない」（割烹）、「相次ぐ値上げにより、買い控えが起こると考えられる」（飲食店）など、値上げに対するマイナスの影響が懸念されている。

**事業所向けビジネス関連（D.I. = 25.0）**・・・事業所向けビジネス関連では、先行き判断は25.0と、前回（28.3）より 3.3ポイント低下した。「新聞購読率の低下で折込広告への出稿を見合わせるクライアントが増えそう」（広告）や、「廃業・倒産する企業が出てきており、これからも増加しそう」（運送業）、「用紙や資材の値上げを製品価格に転嫁できていないが、同業他社との競合から、今後も価格転嫁は容易ではない」（印刷）など、経営環境がさらに厳しくなることが危惧されている。

**雇用関連（D.I. = 18.8）**・・・雇用関連は18.8と、前回（32.5）と比べ 13.7ポイントと大きく下降した。「二輪、四輪車の製造業の先行きが不透明」（職業紹介）や、「消費の増加が望めないと景気は下方へ動き、求人の本格的減少につながる」（職業紹介）など、雇用情勢の本格的悪化を懸念する声が聞かれた。

図表3 「景気が（やや）悪くなっている」と判断した理由



## 来客数と販売量の減少に歯止めがかからず、景況感が悪化

次に、景気の現状判断（方向性）が3カ月前と比べて“（やや）悪くなっている”としたウォッチャーに、その判断理由を聞いたところ、家計消費関連では、「来客数の動き」（49.2%）、「販売量の動き」（15.9%）との回答が多く挙がった（図表3）。また、事業所向けビジネス関連では「受注量や販売量の動き」と「取引先の様子」がともに4割を超え、雇用関連では「求人の動き」（75.0%）が最も多かった。

家計消費関連における「来客数の動き」では、「来客数の減少が止まらない」（商店街）や「5月のガソリン価格高騰以降、客足が止まっている」（観光ホテル）、「販売量の動き」では、「必要でないものは買い控えられている」（家電量販店）、「節約志向がみられ、販売量は減少傾向」（ガソリンスタンド）などの声が挙げられた。

また、事業所向けビジネス関連をみると、「受注量や販売量の動き」では、「リース取扱高が、13カ月連続で対前年比マイナスである」（リース）や「不動産取引の件数が落ちている」（司法書士事務所）、一方、「取引先の様子」では、「取引先との交渉で、業界の状況悪化を訴える声が増えている」（ソフト開発）などの回答がみられた。

さらに、雇用関連における「求人の動き」では、「新規求人数が前年比 24.8%減少、特に輸送用機器製造業が 70.7%と大幅に減少している」（職業紹介）、「顧客企業の業務量減少による派遣契約終了が、多数発生している」（人材派遣）などの声が寄せられ、現在の雇用情勢の厳しさが伺われる。

以上、諸物価の高騰によって、消費者マインドが大きく低下し、企業の経営環境が悪化する中、ウォッチャーの景況感は急速に後退している（次項 参考 参照）。ウォッチャーからは、消費者が生活防衛に走り、企業も採用抑制や派遣契約の打ち切りで

雇用調整を図るなど、景気の後退局面入りを示唆するコメントが多く寄せられた。また、先行きを不安視するウォッチャーも多く、当面、この停滞感が続くものと懸念される。

**参考 現時点での景気の「水準判断」は、30を下回る**

今月の景気は“良いか悪いか”を聞いた、現時点での景気の「水準判断」は22.6となり、前回（32.5）に比べて 9.9ポイント低下し、引き続き、現在の景気が悪いと感じている回答者が、良いと感じている回答者を大きく上回った（**図表4**）。また、指数は、すべての分野において30を下回り、特に雇用関連（15.6）においては前回（30.0）の指数の約半分の水準にまで低下するなど、現時点での景気の悪さを実感しているウォッチャーはさらに増加しているようだ。

**図表4 現時点での「水準判断」指数**

	指数D.I.
全 体	22.6
家計消費関連	21.9
小売関連	20.0
飲食関連	27.8
サービス関連	22.5
住宅関連	21.4
事業所向けビジネス関連	29.4
雇用関連	15.6

**調査の要領**

- (1) 調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的にしている。
- (2) 調査対象：家計消費、事業所向けビジネス、雇用など、経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者。

分 野	ウォッチャーの代表的な業種
家計消費関連	
小売関連	百貨店、スーパー、乗用車販売、書籍販売など
飲食関連	飲食店、割烹、外食チェーンなど
サービス関連	観光ホテル、旅行代理店、カルチャーセンターなど
住宅関連	不動産販売、住宅販売、住宅展示場など
事業所向けビジネス関連	印刷、広告、運輸、司法書士、ソフト開発など
雇用関連	人材派遣、職業紹介、求人情報誌など

- (3) 調査方法：各企業の担当者に対するアンケート調査
- (4) 調査事項：現在の景気的水準について 景気の現状に対する判断（3カ月前との比較）  
その判断理由と、追加説明および具体的状況の説明など（自由回答）  
景気の先行きに対する判断（2～3カ月先の予想）
- (5) 調査時点：平成20年7月下旬
- (6) 回答状況：調査対象118名のうち、有効回答を寄せていただいた方は106名で、有効回答率は89.8%である。  
\*景気判断指数とは、景気の現状や先行きに対する判断を点数化（下表）し、それらに各判断の構成比（%）を乗じて指数（D.I.）化したものである。これにより、判断指数（方向性）においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。また、現在の景気（水準判断）については、指数が50を上回れば景気が「良い」、下回れば景気が「悪い」ということになる。

評 価	現在の景気（水準判断）	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い
	現状判断	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0